

三次イノベーションだより

三次イノベーション会議

産業界、大学及び行政の連携により、大学の有する研究成果、機能等を活用し、これまでのモノ、仕組みなどに全く新しい技術や考え方を取り入れ、新たな価値を生み出し、地域社会に貢献することを目指します。

2013年3月

発行：三次イノベーション会議

(事務局：三次市産業部商工振興課)

第13回みよし産学官連携セミナー・経営講演会を開催 ～連携成果の発表と赤岡学長の特別講演を実施～



県立広島大学との連携成果の発表や大学の有する知識を紹介するセミナーを、平成25年2月20日に三次グランドホテルで開催し、市内外から約70名の参加がありました。

今回のセミナーでは、平成23年度の「産学官連携推進支援事業」として採択した事業者による、県立大学との連携成果の発表のほか、県立広島大学赤岡学長の特別講演を行いました。

「ちしゃとう」を使った商品開発 大津建設株式会社



作木町で建設業を営む同社は、同町内にある高丸農園の遊休農地を活用して、ちしゃとうの栽培に取り組まれています。

国内での栽培事例が少ない中で、安定的な栽培技術の確立と成分分析について、県立広島大学の甲村浩之教授と連携して事業を進めました。

研究では、収穫適期がきわめて短いため、草丈で予測しながらの収穫が必要なこと、食用となる茎部分よりも葉の部分にポリフェノール含量が高いことなどが判明しました。



ちしゃとうの特色を活かした、今後の商品化が楽しみです。

吹き戻しの健康効果に関する研究 株式会社ルピナス



福祉関連製品の企画・販売を手掛ける同社は、口腔ケア商品「吹き戻し」の活用方法について研究を続けています。

吹き戻しは口腔障害におけるリハビリケアのメニューに取り入れられているほか、介護予防製品としてもその効果を発揮しています。

今回の大学との連携では、吹き戻しを使用することで口周辺の筋肉(頬筋等)が鍛えられ、美容につながる効果があるとの結果が得られました。



研究結果を有効に活用した製品の利用拡大が期待されます。

手のひら点訳支援

ソフト工房 shinke.net

福祉関連のソフトウェア開発などを手掛ける同氏は、視覚障害者のコミュニケーションツールの一つである点訳を、スマートフォンなどで利用できる点訳



支援ソフトの開発を行いました。これまで日本語点字への対応が課題とされてきましたが、今回の研究の結果、その課題解決に成果が得られました。

今後は、日本語点訳ルールの策定と点字ディスプレイへの出力対応、応用ソフトの開発などに取組みます。



※当日の発表は、共同研究を行った県立広島大学経営情報学部佐々木准教授にいただきました。

竹粉の有効活用と商品化

有限会社大杉組



将来的な竹林整備を目指して、従来から製造を手掛ける竹粉の特性の再確認と特性に基づいた商品開発に取り組みました。

竹には抗酸化・抗菌・防腐効果があることに着目。肥料としては、他に多くの先行事例があるため、まずは雑草抑制材として利用し、次に肥料として利用する方向性が示されました。

商品化に向け、今後更なる検証が行われます。



※平成22年度の採択事業ですが、研究開発の方針変更に伴い、期間を延長して事業を実施しました。

県立広島大学赤岡学長特別講演

～三次の土地の力と企業活動～



県立広島大学からの研究成果の紹介として、今回は赤岡功学長の特別講演を行いました。「三次の土地の力と企業活動」と題した講演は、100ページを超えるパワーポイント資料を駆使したユーモアのある内容でした。



三次地域はたたら製鉄により産業が発達したこと、中村憲吉など多くの文化人を輩出した土地柄があること、三川が合流し水に恵まれていることなどを例に挙げ、

その土地の力が企業活動に結びつくことなどが紹介されました。

また、「三次の産学官連携は機能している。たくさんのおんリーワン・ナンバーワン企業がある」との心強い言葉もあり、今後も連携による「イノベーション」の創出が重要であると再認識しました。



赤岡学長は、平成17年4月から県立広島大学学長を、平成19年4月からは公立大学法人広島大学理事長兼学長を務められましたが、本年3月末をもって退任されます。この間、当会議の副会長としてもご活躍をいただきました。

これまでのご功績に感謝の意を表するとともに、今後益々のご活躍をお祈りします。

何でもサロン

～ビジネスにつながるヒントに～



毎回違ったテーマにより、参加者の疑問や知りたい情報などを共有することで、ビジネスにつながるヒントを探る自由な意見交換の場です。

「地域ブランドを考える」平成24年12月4日開催



経営情報学部経営学科の栗島浩二先生を囲み、「地域ブランド」を中心に意見交換を行いました。

ブランド化するには、誰がどのような形で利用するかを理解し、また、ストーリーができてることが重要で、消費者にきちんと伝わり、信頼関係を築くことがポイントになることが分かりました。メジャーでないものや日頃当たり前前に思っているものが、得てして価値あるものである場合があります。三次ならではの食材や観光資源の良さを見つめ直し、大切にしていく必要があります。

ると再認識しました。

参加者からは、それぞれの活動や三次に対する熱い思いなどが語られ、活発な意見交換が行われました。



「福祉ビジネスのパラダイム・チェンジ」平成25年1月22日開催

保健福祉学部作業療法学科の近藤敏先生を囲んで開催しました。

「介護」と聞くと、ビジネスにつながらないイメージがありますが、現場には様々な「ニーズ」があり、発想を



転換し特徴あるサービスを提供することがビジネス展開においては重要になることが理解できました。また、要介護者に「『役割』を与えること」「『誇り』を取り戻すこと」「介護から『卒業』させること」などが福祉ビジネスのキーワードになるとの解説もありました。



退職後には、先生自ら介護事業の会社を立ち上げるそうで、より実践的なお話も聞くことができました。

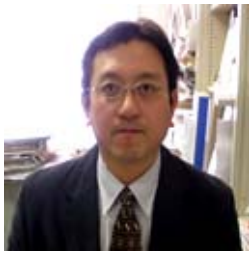
NPO法人として介護事業に取り組んでいる方やまさにこれから始める予定の方など様々な立場の方が参加され、有意義なサロンとなりました。

何でもサロン開催状況(平成24年度)

| 開催日 | テーマ | 講師 | 所属 | 参加人数 |
|--------|---------------------|--------|--------|------|
| 10月31日 | 高品質なブドウ生産のための基礎的な研究 | 藤田景子先生 | 生命環境学部 | 19名 |
| 12月4日 | 地域ブランドを考える | 栗島浩二先生 | 経営情報学部 | 22名 |
| 1月22日 | 福祉ビジネスのパラダイム・チェンジ | 近藤敏先生 | 保健福祉学部 | 18名 |

※関心のあるテーマや研究内容などがありましたら、事務局までお知らせください。次回以降の開催の参考にさせていただきます。

県立広島大学教員紹介



さとう ゆきのり
佐藤之紀教授

生命環境学部生命科学科

専門分野：食品化学、食品工
学、調理科学、家
政学

当研究室は、食べ物のかたさや液体でできた食品の粘性に関する研究を主に行っています。食べ物の物性は、歯の噛み合わせやアレルギー疾患の発症などに関わりがあることが知られているように、人間の成長に重要であることは明確です。もっとも、機能をもたない食品はありませんが、食品分野の研究の一部には食品を売ることが目的の経済優先の傾向となっていることをとても危惧しています。そのような背景のもとで、当研究室では、確実にわかっていることのみを整理し直し、まずは食品中で何が起きているのかを物理化学的な立場から追求し、食物の物理化学的性質を分類するなど基礎的な知見を得ることから

はじめています。最終的には、複雑系である食品の物性と機能の解明とそれらの制御をめざしています。

食品中の代表的な反応として、糖とアミノ酸の反応であるメイラード反応があり、食品の褐色と深い関わりがあることが知られています。しかし、この反応は糖とアミノ酸が水中に共存していれば必ず起こるわけではなく、色が変わるという劇的な変化に目が奪われてしまって極めてまれな比率で反応していることに気がつきにくいのです。糖とアミノ酸（または、アミノ酸がペプチド結合したタンパク質）は、いくら色が変わっても大多数の分子は水溶液中に共存していても反応しないと判断する勇気が必要なのです。興味あることに、この反応はある病態のモデルへ応用できるという発想もあります。病気がいつも高頻度で起こってはたまらないので、何となくリーズナブルに感じ、異なる事象でも共通した理論が見えてきた気がします。まさに、総合学術です。

新たなアイデア商品がいっぱい！



県立広島大学が地域の企業や地方自治体等と協力して開発した商品をまとめた「産学官連携商品集」が発行されました。当会議のワーキンググループメンバーでもあり、3月末で退職される佐伯達志

県立広島大学産学官連携商品集

教授が中心となって編集されたもので、これまでの産学官連携の集大成ともいえる内容です。

三次市内の事業者との連携事例もあり、身近な所でさまざまなアイデア商品が生まれています。商品紹介が、新たな連携や研究・商品開発のきっかけになることを期待します。

県立広島大学地域連携センター

Tel : 082-251-9534

産学官連携に関する相談、問合せ先

三次イノベーション会議

三次市産業部商工振興課（事務局）

Tel : (0824) 62-6171 Fax: (0824) 64-0172
E-mail : shoukou@city.miyoshi.hiroshima.jp

三次商工会議所

Tel : (0824) 62-3125 Fax: (0824) 63-5200
E-mail : info@miyoshi-cci.or.jp

県立広島大学庄原地域連携センター

Tel : (0824) 74-1704 Fax: (0824) 74-0191
E-mail : gakuju@pu-hiroshima.ac.jp

三次広域商工会

Tel : (0824) 44-3141 Fax: (0824) 44-3390
E-mail : miyoshi@hint.or.jp